

第 3 号議案

2026 (令和 8) 年度 事業計画及び予算

1. 2026 年度 事業

ならびに活動計画

2. 2026 年度 事業予算

1. 2026 年度 事業ならびに活動計画

2026 年度事業ならびに活動計画

特定非営利活動法人 安全工学会

2026 年度は、2025 年度の実績を踏まえ、これを更に発展させるべく更なる学会活動を展開することを目指す。

1. 事業活動方針

昨年度は、運営会議、国際交流 WG、広報 WG（2022 発足／理事会直下の組織）の定着を踏まえ、更なる学会活動の発展を図った。

2026 年度はこれをさらに進め、学会の基礎を確認しこれを強化する場を持つことに努め、周辺領域を学びながら拡大の場を作ることを進める。

2026 年 11 月 26 日（木）～27 日（金）、山形県山形市の山形テルサにて、第 59 回安全工学研究発表会を行う。詳細は当該実行委員会によるが、昨年 of 久留米大会（第 58 回）の反省と気づきを踏まえ改善を進めていく。

「具体化」「実現」「発展」の具体的な方法・形態の一つとして、「研究会」活動が挙げられるが、学会内（学会員各位）の新たな研究会の種を見出し育て発芽を促してゆく（ボトムアップ）とともに、学会の将来構想から生まれる（トップダウン）、「プロジェクト」の育成を継続して支援していく。

ボトムアップ型研究会の一つとして、医療安全研究会は、2025 年 11 月より開始した「安全機能を有する社会技術システムの CS(Component Function Set) 及び CFE(Critical Functional Element)法を用いたリスク分析」の研究を継続して検討を進めるとともにアウトプットとして、安全工学会誌へ研究成果を順次解説していくことを計画する。

産業防災研究会は、2023 年及び 2024 年度開催した懇話会以降、人員を拡大して、「NATECH 安全管理フレーム」の構築作業に加え、「NATECH に関する設備設計上の基準」、「行政・住民との平時/自然災害時のコミュニケーション」などの勉強会や懇話会を実施しているが、これを継続するとともに対外的な活動等間口を広げていく。

静電気災害防止研究会は、2023 年 3 月 3 日(金)の第 1 回講演会以降、2025 年 12 月まで計 9 回の講演会を通じて情報を発信し、多くの聴講者を得て、質疑やアンケートなどを通じて情報を収集してきた。講演会は終了とするが、今年度は、年 2 回程度の研究会を開催し、情報提供および共有を行うとともに学会としての新たな情報発信活動を検討していく。

地域活性研究会は、「地域活性の一つの大きな柱になるのは安全（工業振興、農業振興、観光振興）」、また「安全から様々な振興策を模索する試み生まれませんか」といった視点から発足した。コロナウィルス感染症の影響から、本格的な活動を開始できず、2025 年も活動ができなかったため、具体的な再構築も含め、研究会の存続について検討を行う。

トップダウン型プロジェクトの一つとして、研究会活度ではないが、安全工学と人間工学との境界領域に着目した新たなプロジェクトとして、2025 年度より開始したヒュ

ーマンファクターに関する新たなリスク評価の考え方の検討プロジェクトの支援を推進していく。

学会からの情報発信として、「安全工学誌」や他の出版物による情報発信や学会のホームページを介しての情報発信がある。広く世界に情報を発信する視点から、安全工学誌への英文投稿・寄稿を継続して奨励し、安全工学誌の全面公開を目指し調整を進める。またホームページや刊行物の紙面などの改善に努め、学会内外への発信力を上げていく。加えて研究発表会などの機会を活かして、学会のプレゼンスの更なる向上を継続して目指す（広報WG）。

コロナウィルス感染症の拡大を通じ、WEB 会議・講演会などの有効性が認識され（参加者の拘束時間の短縮、出張経費の削減など）ハイブリッド開催の形が新たな情報交換手段として実効を重ねた。一方、大規模なハイブリッド開催では、それぞれ異なる会議場の設備機器と WEB 環境との調整に、場合によっては多大な技能と機材・費用が掛かることが明らかとなってきた（毎年の研究発表会や総会他）。

2026 年度は、現地対面型となる安全工学実験講座、体感訓練の教育セミナーを除き、安全管理の最新動向講習会、安全工学セミナー等はハイブリッド開催を継続することで、有効性を活かした講演会、セミナーなどの普及事業を進めていく。安全工学地域セミナー、地域企業（団体）支援セミナー、災害事例研究会は残念ながら昨年度は開催を検討したものの適切な事案がなく開催できなかったため、今年度の開催を目指す。

併せて周辺学協会との連携に努め、講演会、セミナー、講習会などの集客増を継続して図り、会議やセミナーの開催についても連携を継続して強化する。学会の将来構想に基づいた戦略的な連携を引き続き模索する。

安全工学会誌の論文などの発表は、会員の研究成果の発表の場として、また学会からの知識・情報の発信の場として重要な役割を果たしている。2025 年度も研究会などの成果を積極的に発信した。また安全工学誌は「安全工学」を軸に非常に幅広い分野の論文を受け入れており、この点は世界的にも稀有な存在でありこの特徴を大切に育てて行く（J-STAGE の活用や英文原稿の奨励など）。

これまで、APSS の開催、韓国安全学会（KOSOS）との協力関係の樹立（MOU の締結による相互訪問による交流促進など）など、国際交流に努めた。2026 年度も継続して国際交流に努めてゆく（国際交流 WG）。

2. 事業内容 特定非営利活動に係る事業計画

2. 1 安全工学に関する研究・教育事業

① 安全工学に関する研究

学術委員会を中心に安全工学及び安全工学教育に関する検討を進め、普及、啓発活動に引き続き注力する。研究会活動（ボトムアップ）の活性化（医療安全研究会、産業防災研究会、静電気災害防止研究会、地域活性研究会など）、再構築に努力した（特に学術委員会から産み出す研究会活動を模索した）。

さらにトップダウン型プロジェクトの一つとして、安全工学会をとりまく周辺領域から学ぶ活動を志向し、境界領域に着目した新たなプロジェクトとの新たなプロジェクトの立ち上げを企画してゆく。

② 安全工学シンポジウム 2026「イノベーションと安全」

安全工学を軸とした、横断的な研究発表会への参加（日本学術会議主催）
 開催月日：2026年6月24日（水）～6月26日（金）
 開催場所：日本学術会議ならびにオンライン配信（ハイブリッド開催予定）
 参加者：3000名（予定）
 主催：日本学術会議
 幹事学会：日本機械学会
 共催：安全工学会ほか30学協会

- ③ 安全工学研究発表会（第59回）
 安全工学会の研究成果の発表会を開催する。同時に安全工学に係る情報交流の学術及び技術の切磋琢磨の場を、産官学また学界や各協会を横串として貫く形で提供する。
 開催月日：2026年11月26日（木）～11月27日（金）
 開催場所：山形県山形市 山形テルサ
 参加者：250名（予定）
- ④ 2026 プロセス安全シンポジウム（2025 PSS）
 （検討中）
- ⑤ 研究・教育事業管理
 対象委員会・研究会
- | | |
|---------------|-------------------|
| 学術委員会 | 4回 |
| 安全工学研究発表実行委員会 | 1～4回 |
| 医療安全研究会 | 6回 |
| 産業防災研究会 | 2回（必要に応じ短時間、複数回も） |
| 静電気災害防止研究会 | 2回（予定） |
| 地域活性研究会 | 未定 |
| 新規研究会の立ち上げ | 随時 |

2. 2 安全工学に関する普及啓発事業

2.2.1 一般普及事業

(1) 会誌“安全工学”

- ① 発行 印刷物の発行 年6回／480ページ（Max.）
 ② 電子化推進
 J-stageの公開 2016年6月発行分～実施済み、逐次更新
 ③ 英文誌の検討
 当面は現行の枠で英文原稿の増加（英文原稿の提出を奨励する）に尽力する。

(2) 講習会・セミナー

- ① 第48回安全工学セミナー
 物質危険性講座 2026年09月（検討中）
 危険現象講座 2026年10月（検討中）
 プラント安全講座 2026年11月（検討中）
 安全マネジメント講座 2027年01月（検討中）
 実施予定場所 ハイブリッド開催（検討中）
 参加人員 計200名（検討中）
- ② 第22回安全工学地域セミナー
 開催月日 2026年6月（検討中）

- 実施場所 (検討中)
 参加募集人員 (検討中)
- ③ 第36回安全管理の最新動向講習会
 開催月日 2026年09月(大阪/検討中)
 2026年10月(東京/検討中)
 実施場所 ハイブリッド開催(検討中)
 参加人員 未定
- ④ 第24回安全工学実験講座
 開催月日 2026年7月(検討中)
 実施予定場所 (株)カーリット赤城工場 危険性評価試験所
 参加人員 18~20名
- ⑤ 災害事例研究会
 開催月日 2026年、検討中(未実施)
 実施予定場所 検討中(未実施)
 参加予定人員 各回100人以内(未実施)
- ⑥ 地域・企業支援セミナー
 日本全国の地域・企業への講師の派遣 2件
- ⑦ 第9回 体感訓練の教育セミナー
 安全教育担当向けセミナーの継続開催の推進
 開催月日:2027年2月(検討中)
 実施場所 三井化学株式会社(茂原分工場)技術研修センター(予定)
 参加募集人員 16~18名
- ⑧ 普及啓発事業管理
 ・対象委員会・研究会等
 編集委員会 12回
 普及委員会 4回
 ・会誌への広告募集管理 逐次
- (3) 図書販売・会誌の年間購読販売
 法人事務所にて図書販売等を実施する。安全工学便覧第4版の販促(継続)。
- 2.2.2 普及啓発事業：受託事業
 経済産業省の新規事業に注目し、受託事業管理委員会管理下、対応可否を検討する(適宜)。

2. 3 安全工学に関する調査及び情報収集提供事業

ホームページを充実させ、会員への情報提供を推進する他、意見交換システムの検討を行う。また、非会員へのPRを推進する(継続)。

2. 4 安全工学研究の奨励及び研究活動等の表彰

学会賞授与：

安全工学に貢献した学術業績、優秀論文、功労者を表彰する。玉置功労賞・北川学術賞、学術技術功労賞について、学会員に推薦を応募する方法を採用した。2026年度も継続して実施する。

対象：玉置功労賞(2名以内)、北川学術賞(2名以内)、安全工学論文賞(2件以内)、学術技術奨励賞(2名以内)、優秀・学生講演賞(2名以内)

2. 5 安全工学に関連する国内外の団体との連携及び協力

安全工学に関連する学協会に加入し、情報を得ると共に安全工学の発展のために協業を模索する。国際的には、APSS（共催及び会員の交流）、CCPS、ICSI、韓国安全学会（KOSOS/MOUに基づく年会での相互交流）などとの情報交換を継続、発展させる（継続）。

① 諸会費

日本工学会、高圧ガス保安協会、防災学術連携体などに会員として加入（継続）

② 安全工学シンポジウム 2025 他

③ 防災学術連携体、日本化学連合（オブザーバー）への参加を継続し、接点を模索する。

④ 化学工学会、石油化学工業会、日本化学工業協会、化成品工業会、（独）情報処理推進機構などの周辺学協会との連携を深める。

2. 6 管理業務

① 総会 1回開催

開催月日：2027年5月

開催場所：タワーホール船堀（予定）

② 理事会 5回開催

開催月日：2026年5月、7月、11月、2027年3月、5月

③ 評議員会 1回開催

開催月日：調整中

④ 監事会 1回開催

開催月日：2027年4月（予定）

⑤ 委員会

総務委員会 必要に応じて開催

企画委員会 4回開催

アドバイザーボード 1回開催（再構築中）

⑥ 現場研修会 2回開催

開催日：2026年4～9月、2027年3月予定（未実施）

見学先：調整中

参加予定人員：安全工学会の会員 各回20～30名

その他未定

以上